



# 学びの虹

東京都立鹿本学園 学校通信 令和5年9月20日号

東京都立鹿本学園

校長 高橋 馨

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

## 2学期の学び ～○○の秋～

道端の彼岸花の花茎が競い合うように背を伸ばしています。9月も終わりに近づき、ようやく秋の気配が漂い始めました。真夏のような暑さの中で迎えた2学期の始業式、校内を巡回し各クラスの子供たちの様子を見て周りました。久しぶりに先生や友達と一緒に過ごす時間を楽しんでいるのが、教室の中から伝わってきました。そして、しばらく見なかったからこそ気付けた変化、背が伸びたり、身体が大きくなったり、顔つきが大人っぽくなったり、そうした成長を見ることもできました。改めて子供たちの育つ力、エネルギーのようなものを感じ、嬉しい気持ちになりました。さらに、目に見える部分だけでも、これだけの変化があるということは、目に見えない部分の変化や変容も沢山あるのではと思いました。そうした子供たちの成長を読み取り、2学期の学びにつなげていかなければと感じました。

スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、読書の秋、そして実りの秋。いろんな秋を体験した子供たちの成長を、保護者の皆様と共有し実感できる2学期となるよう努めてまいります。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

## 学校における働き方改革について

『子供たちに、効果的な教育活動を行うためには、教員が健康で生き生きと働くことが大切です。子供たちの笑顔のため、教員が子供たちと向き合うための時間や、授業の質を高めるための授業準備の時間を十分に確保できるよう、学校における働き方改革に対する皆様のご理解とご協力をお願いします。』この文章は、9月6日に東京都教育委員会のHPに掲載された、「学校における働き方改革」の取り組みについて、保護者・地域向けに発信しているものです。

また、その前週の8月28日には「教師を取り

巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策」が中央教育審議会より提言されました。そこには『子供たちが抱える困難が多様化・複雑化するとともに、保護者や地域の学校や教師に対する期待が高まっていることなどから、結果として（教師の）業務が積み上がり、教師を取り巻く環境は、我が国の未来を左右しかねない危機的状況にある』と記され、国や都道府県、市町村、各学校が直ちに取り組むべき事項が示されています。

こうした動きの背景にあるのは、深刻な教員不足です。教員の超過勤務等によるブラックな職業としてイメージが定着したのか、教員志望者は年々減少し、配置されるはずの教員が確保できないといったことが現実に取り組み始めています。

本校は、既に4月の全校保護者会で今回の国や都が示した内容と同様の方向性で学校経営を進めることをお伝えし、御理解・御協力をいただいているところです。引き続き、今後の学習活動の改革や見直しを着実に進め、安定した鹿本学園の日々の学びを継続的に行えるよう努めてまいります。その為にも、保護者の皆様との緊密な連携による「目標の共有」が、これまで以上に重要となってきます。具体的には9月25日から実施できるよう準備を進めております「学校評価アンケート」、そして10月に実施いたします「個別面談」や「授業参観」を有効に活用することで、本校に対する保護者の皆様のニーズや意向等を丁寧に把握していきたいと考えております。そして集めた情報を元に今後の鹿本の学びについて考え、継続する活動、縮小する活動、充実・発展させる活動、やめる活動、そして新たに始める活動等、来年度の学習計画に反映させてまいります。引き続き、御理解・御協力くださいますようお願いいたします。

鹿本学園校長 高橋 馨

# ～外部専門員の取り組み紹介～

鹿本学園には、S部門、N部門ともに、たくさんの外部専門員の方が来校し、教職員は日々の指導についてアドバイスをいただいています。今回は、S部門の取り組みの一部を、御紹介します。

S部門の自立活動室で行う自立活動の授業には、自活担当教員とともに、理学療法士の方々が参加しています。児童・生徒と教員が1対1で授業に取り組んでいる場面に理学療法士がついて、その場で身体の取り組みについて、実践的なアドバイスをしてくれます。それをもとに、教職員は、「こんなふうに緊張を緩めよう」「歩くときの介助では、こんなことに気を付けよう」と、具体的に指導方法を改善することができます。学部の教職員はもちろん、自活担当教員と理学療法士も密接に情報を共有し、連携して、児童・生徒の皆さんが、リラックスして過ごすことや、楽しく元気に身体を動かすことができるよう、取り組んでいます。児童・生徒の皆さんも、毎回助言してくれる理学療法士の方を覚えて仲良くなり、「できるようになったね!」と褒められると、張り切って授業に取り組む姿が見られるようになりました。時には教室にも出向いてもらい、学習時の姿勢や、歩行器で歩くときの姿勢などについても、助言をいただいています。これからも、心強いパートナーとして、児童・生徒の皆さんの成長を、応援していただきます。

担当：福永 映子

## N部門中学部 作業学習カフェ班オープン

N部門中学部のカフェ班が運営する「カフェ PocoPoco (ぽこぽこ)」が11月8日よりオープンする予定です。「カフェ PocoPoco (ぽこぽこ)」ではコーヒー、紅茶、緑茶を100円で販売いたします。

カフェ班の活動は、作業学習の一環として「販売活動を通してお客様に接したり、お金の扱い方を学んだりすることを通して社会性を養うこと」をねらいとしています。「このお店に来てよかった」と思っていただけ「いらっしやいませ」を、「また来たい」と思っていただけ「ありがとうございました」を繰り返し練習しております。



新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにとともないまして児童・生徒の皆さんにも「喫茶室利用体験学習」ができるようになりました。どなたでも御利用いただけますが、混雑緩和への御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

N部門 中学部 作業(カフェ)担当 加藤 陽子

○営業時間：【毎週水曜日 10:30~11:20】 11:15でオーダーストップとなります。

○場所：【N棟1F 多目的ホール】\*御予約の方法は後ほどお知らせいたします。



皆様が笑顔になれる場所を目指して  
～Café Poco Poco～



# ～ICT機器を活用した取り組みについて～

電子黒板・国語・数学(算数)あるいは社会見学の事前学習など、児童・生徒が自分の考えを発表する際に活用しています。大きなモニタに直接触れて操作したり書き込んだりできることと、それを皆で見て共有できることが電子黒板活用の最大のメリットです。大画面で自分の考えを発表できること、友達に伝わるのがうれしくて、「私もやってみたい!」と積極的な様子が見られました。

タブレット端末・様々なアプリケーションを活用して言葉や数だけでなく理科や社会の学習を進める他、児童・生徒一人一人のニーズに合わせて学習の補助にも活用しています。大きなモニタの映像をタブレット端末でも表示することで、見やすい位置で注目できたり、手でタップ操作ができたり、視線入力装置を併用することで自ら選択することができたりと、タブレット端末を使用することで学習の幅が広がっています。

他にも Adobe を使用し色調や明暗、構図等美術で学んだことをデジタルアートへ発展させたり、キーボードでの文字入力練習を通して文章を作成したりするなど表現活動の分野でも ICT 機器活用の可能性があり、今後児童・生徒の自由な発想から、新たな学びが創出されることが期待されます。

担当：吉松 聡



